心奥探訪

～壁に挑み続けた男が描いた 子ども達との“未来”～

２０２４年10月頭。
秋の匂いと日中の暑さ、移り変わる季節の真っ只中に
熱い想いのその人は穏やかな微笑みを携えてやってきた。

「楽しみにしてました」

メールのやり取りの中、同年代ということもあり
共通の趣味で盛り上がりながら迎えたインタビュー当日。

パソコン越しに映る姿はほんの少しの緊張と期待を帯びて、ゆっくりと話し始める。

43歳の今、彼がやりたいこと、伝えたいこと
その瞳の輝きに映るのは如何なる世界なのだろうか。
そこには自問自答を繰り返しながら見つけた、子ども達への想いが拡がっていた。

幼い頃からリーダータイプだったという彼。
その背景には母の教えがあったという。

「当たり前のことを当たり前に出来る人が立派な人なんだよって」

近所の人や誰かのために動くことの多かった母の姿を見てきた彼にとって、
それが何よりも当たり前のことだった。

そんな彼が迷い、立ち止まったのは彼自身の進路。
やりたいことがわからないまま決めるのは嫌だ、
そんな中出会ったのがワーキングホリデーだったという。

文系か理系か?当時の彼にとっては大切な2択。
けれど、旅先で出会った現地の友人の語る言葉は彼のスケールを大きく越えていた。
友人が目を輝かせながら語る夢。
その出会いが
その言葉が
その夢が
彼の価値観を大きく変えていった。

帰国し、大学に進んだ彼は1年目から起業を念頭に置き、行動を開始。
やりたいことを　好きなことを　形にしたい。
元来のリーダーシップを発揮しながら仲間たちと前に進み始めた大学時代。
数多くの経営者と出会う中で自らの歩みたい経営者像もハッキリとし、
卒業後は憧れの経営者の元に入社。
起業時のバックアップもあるキャリアコースでの採用だったという。

「やっぱ、焦りましたよね」

入社して課せられたのは3ヶ月で法人契約10件。
持ち前の行動力とコミュニケーション力で可愛がられこそすれ、
肝心の契約数は伸び悩んでいた。
刻一刻と迫る期日に、学生時代お世話になっていた経営者に相談し、
訪問先に手紙を書くなど、やれることは全部やったという。
そして迎える前日。

「最後まで全力でやるって、臨みましたね。」

期日を明日に迎え、契約件数は7件。
達成できないことは自他ともに分かっていたという。

分かっていながらも、ここで全力をやめてしまったら自分に対して誇りを持てない。
会社からは引き止める声や違う部署などの提案はあったが、
初めから達成できなければ辞めると覚悟を決めていた彼は最後の日も全力で駆け抜け、
会社を後にしたという。

その後は少人数ながらも営業力の強い会社に再就職。
社長の鞄持ちとして一緒に全国を飛び回ったという。

「当たり前のことを当たり前に継続すると突き抜ける」

そんな社長の隣で目の当たりにしたのは、名刺交換した人全てにはがきを書く社長の姿だった。
その時話した内容や言葉を添えて送られる手書きのはがき。
書こうと思えば誰でも書けるはがき。
切手やはがきの種類にまで相手を思って選ぶその姿勢に彼は心を打たれたという。

「25歳に独立したかったんですよ」

自分自身で決めた一つの目標。
それに向け退社を決意、そこには自信と同時に振り返ると焦りも感じていたという。
そして彼にとって2度目の壁が訪れた。

「自信が揺らいでしまったんですよね。」

事業を立ち上げ賛同する仲間も集まる中、良かれと思って発する仲間の助言に
彼自身が振り回されてしまったという。
結果的に計画は頓挫、彼自身も精神的に病んでしまった。
自身に対する不甲斐なさや無力感、やるせなさ、存在価値が揺らいだ時期だったという。

そして、そんな彼を救ったのはボランティアで参加した児童館の子ども達だった。
川遊びのボランティアに参加した彼はこれまで経験してきたこと全てを
活かせる環境に楽しさを感じたという。
それは、何よりもそんな自分を通じて子ども達の成長する姿を、喜ぶ笑顔を、
感謝の言葉をもらえたことが嬉しかったと語る。

この時期を境に彼の起業という目標に「教育」というエッセンスが注がれることになった。

子ども達に残したい世界
子ども達に継承したい未来

そのために今、自分が出来ることを。
個別指導塾のマネジメントや子どもの力を引き出す仕組みづくりなど、

やりがいを持って新たに始めた仕事だったが、
いつの間にか生まれたばかりの子どもと触れ合う時間がない現実に気づいたという。
過ぎていく一瞬一瞬、2度とは戻らないこの時をどう生きるのか？
この時に家族、自分、仲間、彼にとって大切な人たちとのバランスを見直した彼。

そんな彼が自身の娘たちにも願うのが『体験』
かつて海外を旅する中で経験した出来事、出逢った友人。
その一つ一つが今の彼自身を作り上げたように、
娘たちにも様々な出来事や出逢いという『体験』を通じて、
好きなことややりたいことを見つけて欲しいと語っている。

「見たいものめっちゃあるんですよ」

少年のように目を輝かせながら満面の笑みで彼は答える。
“やりたいことを実現する”
それはかつて起業を志したあの時と何一つ変わらない。
『体験』を通じて、好きなこと、やりたいことを子ども達にも見つけて欲しい。

子どものような笑顔で語りながら、今できる当たり前のことを今日も彼は続けている。
子どもから大人まで満面の笑みが溢れる未来図を、その瞳に映しながら。